

佐 渡 の 水 草

清 水 尚 之

佐渡ではトキの放鳥に伴い、えさ場となる水田環境に生物多様性を取り戻そうとする活動が活発化している。冬期湛水田、無農薬や低農薬で有機栽培を行う水田などが少しずつ広がっていると聞き、2008年10月の3日間、水草だけを対象として現地調査を行った。その結果、予想以上に多くの絶滅危惧水草を確認できたので報告したい。

◎ミズニラ 旧新穂村、旧羽茂町のそれぞれ1カ所。平野部で林に囲まれた大きなため池と丘陵地の小さなため池で確認。(写真1・2) 個人的にはこれまで全県で7カ所程度しか確認できていない希少種で、このたび2カ所も確認できたことは珍しい。平野部にあったものは同定の決め手となる大胞子の形状が観察できず、蓋膜の有無も確認していないためミズニラと断定できない。過去に佐渡で記録されているというシナミズニラかヒメミズニラの可能性があるかもしれない。

◎マルミスブタ 旧羽茂町の丘陵地の小さなため池で確認。このため池と周辺ではミズニラ、ヤナギスブタ、イヌタスキモ、フトヒルムシロ、イトモ(写真4)などの絶滅危惧種とミズオオバコ、ホッスモ、ミクリspが見られた。マルミスブタは種子の両端に突起がない点でスブタと区別され、植物体の外見ではほとんど区別できない。調べた個体はすべて突起のない種子で、マルミスブタと同定したが、調べていない個体にスブタが交じっている可能性があるのかどうかは分からない。

スブタ自体、上越地方でやや目立つものの県内では希少種だが、マルミスブタは「レッドデータブックにいがた(平成13年)」では北蒲原から報告(1994年、角野)され現状不明とされる希少種。個人的にはこのたびが初の自生地確認となった。



写真1：太い葉がマルミスブタ。細い葉がミズニラ。本来前者は沈水状態で生育するが、水が干上がっている。

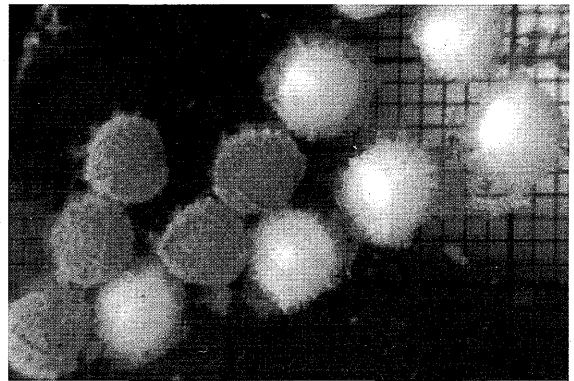


写真2：ミズニラとヒメミズニラの大胞子を比較。蜂の巣状の網目があり褐色のものがミズニラ。突起があり白いものがヒメミズニラ。後者は野尻湖産。

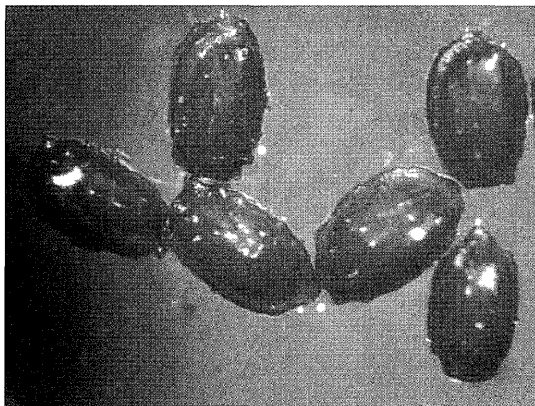


写真3：マルミスブタの実。両端に突起がない点でスブタと異なる。



写真4：イトモ 普通種ホソバミズヒキモと似るが、イトモは葉がより太く短いことが多い。実が一段につき点もホソバミズヒキモが三段ほどにつき点と異なる。

◎ミズアオイ 旧新穂村正明寺のトキ放鳥現場では水田に水をためたピオトープがいくつかつくられており、そのうちの1つにだけ群生。人為的に種子をまくなどの行為があったかどうかは聞き取りをした範囲では分からなかった。

◎イトトリゲモ 同現場の別のピオトープで確認。この1カ所では確認できなかったが、多産種のホッソモと似ているため、混同しているとすれば意外と多いのかもしれない。これらのピオトープには、ミズオオバコ、ホッソモ、キクモなども多く見られた。

◎タチモ 同現場の従来からあるため池で確認。渇水期でもあり、陸生型で見られた。

◎ハリマフサモ? 旧新穂村のハス田で確認。殖芽がフサモ型であったため雑種のハリマフサモと同定したが、別系統のフサモ類雑種の可能性もある。純粋なフサモ、オグラノフサモ、ホザキノフサモ、タチモの可能性はない。フサモとハリマフサモは非常によく似ているが、フサモは自然度の高い山間の池にのみ見られ、農業などの水質汚染がありうる平野部の水田周辺にはまず生育しないといても過言ではない。

◎センニンモ 旧両津市海岸近くにあるコンクリート護岸されたやや大きなため池で確認。本種は県内では下越地方の河川や用水路に生育することが多いが、今回佐渡の河川や用水路では水草自体を確認できなかった。

◎ネジリカワツルモ 加茂湖の南西部で確認。切れ藻がほとんどで、固着して生育している所は1カ所しか発見できず、結実は見られなかった。周辺に、アマモは多数生育している。

◎ハイハマボッス 旧羽茂町の林に囲まれたため池の縁で2カ所確認。生育のいいミズユキノシタと混生している所もあり、混同する可能性がある。水草とはいえないが、湿地に見られる。本種も希少種で、個人的にはこれまで新潟市秋葉区の1カ所ではか自生を見たことがなかった。

ラン科植物などの調査では幾度となく訪れている佐渡だが、改めて佐渡の植物の豊かさには驚かされた。佐渡でトキが生きていくためにはこうした水草が生きていけるような多様性のある環境保全が必要である。トキだけでなく、水草にも配慮した活動が展開されることを期待したい。

長峰池のササエビモ類似種（一報）

上越市吉川区の長峰池に生育するヒルムシロ属の水草で、かつての調査ではエゾヒルムシロとされ、近年の調査では「ササエビモ」とされている種がある。数年間観察した結果、ときに浮葉を生じ、渇水期に枯死することなく、陸生型となることを確認した。純粋なササエビモとはいえず、ササエビモなどを起源とする雑種由来のヒルムシロ属のように思われるので一報として報告したい。

長峰池は周辺の頸城海岸湖沼群と比較しても特異な水草が残る貴重な池である。ササエビモ類似種のほか、ガガブタ、イバラモ、オオトリゲモ、ジュンサイ、セキショウモ、センニンモ、ミミカキグサなどが生育する。近年、池の一部が護岸工事されてしまい、生態系への悪影響が懸念される。また、水草が豊富に生育していた朝日池、鶉ノ池などで、近年水草がほとんど見られない事態となっている。朝日池では農業排水路から池に水を戻しているということで、こうした人為的行為が原因となっている可能性もある。